

## 議長定例記者会見の概要

日 時：令和6年3月14日(木)

12時21分～12時50分

場 所：議長応接室



### 2月定例会を終えての議長所感

(濱砂議長)

本日は大変お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。今年度最後となる2月定例会も本日をもって28日間の会期を終了しました。

今定例会では、令和6年度一般会計予算や令和5年度一般会計補正予算（第7号）など、合計86件の知事提出議案を全て原案のとおり認めたところです。

令和6年度当初予算は、令和5年度（6月補正後予算）に比べて約240億円の減となっていますが、河野知事就任後2番目の規模の予算額となっています。宮崎再生を着実に進め、3つの日本一挑戦プロジェクトにより、宮崎県を次の新たなステージへ進めていこうという、知事の強い決意を感じる予算だったかと思えます。

2月22日から2月29日の5日間、自民・公明・立憲の各会派が代表質問を行い、一般質問では12名の議員が質問に立っています。3つの日本一挑戦プロジェクトや東九州新幹線等の交通政策など多くの質問が行われましたが、中でも、能登半島地震の発生を受けた防災減災については、議員の関心が特に高かったと思われれます。

各常任委員会では付託された議案の審査が行われましたが、このうちの厚生常任委員会では、県立病院事業における一般会計からの50億円の借入に関して、委員会に知事の出席を求めて説明を受けるなど慎重な審査を行いました。

このほか、議員発議案として3件の意見書を可決いたしました。

本年度を振り返ると、G7宮崎農業大臣会合や宮崎県人会世界大会が開催されるなど、喜ばしい話題があった一方で、能登半島地震が発生しました。被害状況を報道で目にするたびに、改めて自然災害に備えることの重要性を強く認識したところです。

全国的には日経平均株価の最高値更新やTSMCの熊本進出などの話題があり、日本経済の回復の流れが見られております。

本県においても、ローム株式会社の工場立地をはじめとした動きが出ているところであり、全国的に高まる機運を逃さないようにしなければならないという思いです。

人口減少や人材育成の対応、国スポ・障スポへの準備など様々な課題も山積しており、引き続き、県民目線に立った徹底した議論を行い、県議会に課された責任、チェック機能をしっかりと果たしていきたいと考えています。

## 質疑応答

### 【UMK】

県立病院事業の50億円借入に関する所感をお願いします。

#### (濱砂議長)

総務政策常任委員会と厚生常任委員会の二つにまたがって審議をしています。私は総務政策常任委員会の審議に加わらせていただきました。内容につきましては、出資や補助など様々なやり方を考える中で、貸付けということで議案が上がってまいりました。県立3病院を総合的に審査をしたということでございます。

各病院については、厚生常任委員会ですっかりと審議をしていただいているのですが、貸付の面から見た私どものところでは、宮崎県の中核病院として地域を担う上ではどうしてもやむを得ず、心配はしながらも健全な経営をしっかりとするという条件をつけて対応していただくことの確認を取り、総務政策常任委員会では可決をしたところで

#### (日高副議長)

厚生常任委員会でもありましたが、コロナ期間中は病床確保料が入ってきて、収支が大体プラスに転じていました。しかし、コロナが5類に移行した段階で資金計画が厳しいのではないかとということが分かって、債務超過が生じるという話だったので、しっかりとチェック体制でいかなければならないという意見を出させていただきました。

ほかにも日南病院の件で、赤字が10数年続いている中で厚生常任委員会では常に経営改善を求めてきたわけですが、日南串間医療圏の中で50床病床を減らして経営安定を行っていくということでした。さらに、集中審議をしたいということで、知事や副知事、関係部長を招いて質疑等を行ってきましたが、その中で、知事から公立病院の重要性と経営改善をしっかりと行っていくことへの強いメッセージがあったというのは確かです。

また、副知事を中心とした病院局をチェックするプロジェクトチームで今後しっかりと検証して、都度収支計画を出していくということだったので、厚生常任委員会としては、それを受け止めて、今後の病院経営の安定をさせていくことを委員長報告で強く要

望したという経緯です。

#### 【UMK】

チェック体制は、議会にも今後求められてくると思いますが、そのことについてはどのようにお考えですか。

(濱砂議長)

なぜこのような状況に陥るまでに至ったのか、対策はできなかったかが議論の中心になっていたので、総務政策常任委員長と厚生常任委員長の報告にもありましたように、今後、定期的に、県議会に丁寧な報告をすることを要望いたしました。

#### 【共同通信】

昨年4月の県議選で新しい体制になったと思うのですが、県議会内の質問や審議の状況など1年間を振り返っての所感や新年度に向けての抱負など、あったら教えてください。

(濱砂議長)

当初にもお話ししましたが、各分野から県議会議員が当選をされ、それぞれが今まで経験してきたことを一般質問や委員会等で発言していただいたものと思います。

しかし、議会は合議制で1人の意見が必ずしも通るものではないので、みんなで議論を尽くして、一つのものが出来上がっていくところです。新人議員の皆さんもこの1年間でしっかり勉強していただいたものと思います。

2年目を迎えるわけですが新年度予算を踏まえて、経験を積んだ議員たちと新たに活発な議論をしていただき、今後の宮崎県の在り方について進めていただけるものだろうと思っています。

#### 【読売新聞】

これまで河野知事が枠にとらわれない取組を新年度予算で考えているとおっしゃっていたと思うのですが、日本一挑戦プロジェクトや予算付けの印象というのはいかがですか。

(濱砂議長)

3つのうちの一つである子ども・若者のプロジェクトの中で、合計特殊出生率を1.63から1.8にすることを目標にしています。現在の婚姻数3,805組を4,500組に引き上げて1.8ということです。これを計算してみると3,805組の婚姻数に1.8を掛けたら大体6,840人で100歳になって68万4,000人になります。

しっかりと頑張っ取り組んでいかないと、人口統計調査と同じような数字になって達成できないのではないかとというような思いがしています。

グリーン成長についても、再造林率を90%以上にしていくということですが、今の1立方メートル当たりの金額というのは1万5,000円程度で山元に3,000円程度残るぐらい

だと思えます。これで売れるのかと思えますが、将来のことを考えればしなければならないことなので、協力していこうと思いました。

(日高副議長)

本県においてスポーツは得意分野で、基本的に始まった段階で目標値はクリアできるような数字ではないかと思っています。

また、人を呼び込む中では、台北線が5月に定期運行するという話もあり、当然に売り込んでいく必要があると思いますが、国内線も同時に誘致していく必要があるのではないかという気がしています。観光客のほぼ9割は国内で海外からは1割ぐらいなので、人を呼び込んで何をしていくかがポイントになってくると思っています。

合計特殊出生率の話も出てきましたが、去年と比べて1.63を維持することも難しい気がしています。専門家を集めながら、どこに効果が出るのかを見極めていくことが重要だと思えます。日本初や九州初といった取組がありましたが、もう少しインパクトがほしいと思ったところでした。

【NHK】

結婚支援のことで、予算のメインが広報やメディア戦略だと思えますが、それで本当に婚姻数が増えるのか個人的に疑問を持っています。そのことについてどのように考えられますか。

(日高副議長)

結婚応援メディア戦略強化事業などありますが、やりすぎることもよくないのではないかと思います。自然に婚姻数が増えていくことは非常に重要なことだと思うのですが、宮崎県だけ上がっていくということは私は考えられないと思います。

また、物価は上がっているけど所得は変わらないという経済面が変わっていかねければ、子どもを産んで育てていく気にもならないのではないかと思います。どこかの製薬会社の調査で、50%以上の女性は子どもを持つと思わないという調査結果があり、数年で10%程度増えてきてるみたいです。メディア戦略がいけないわけではありませんが、あまりおせっかいを焼き過ぎても、逆効果になるのではないかという気がしています。

持論ですが、人口減少を止めようとしています、自然減は避けられないと思います。産業分野においては、人口が減少しても産業が成り立っていけるように、人口減少も想定した場合の取組をしていかないと、全国的に立ち後れるのではないかと思います。

(濱砂議長)

今はほとんどありませんが、昔は集落の世話役が紹介していたというような人的なつながりがありました。我々も女性に対して、声をかけてもいいのかと思うこともあります。これがいいことなのか判断しがたいところですが、結婚などの話については特に気を使って話ができないという社会になってきたのではないかと思います。

【宮崎日日新聞】

東九州新幹線関連で、議員から質問が出て県民の関心が高まっている状況にあるかと思いますが、そのことに対しての受け止めをお願いします。

(濱砂議長)

日豊本線を基本にした二つの路線を今回示されました。まずは調査をして、全体の機運を盛り上げた上で、東九州新幹線の誘致に力を入れていくということだと私は受け止めており、機運醸成のひとつだと思っています。

(日高副議長)

東九州新幹線についての調査もいいのですが、個人的には大分と愛媛の豊予海峡ルートがつながれば相当効果があると思っており、せつかくであればそれも併せてどういう効果があるかを調査することも面白いと考えています。宮崎県だけで取り組むだけではなく、大分県や熊本県と連携して国土交通省に示していくことも必要だと思っています。

【MRT】

今日の本会議の中で、ガザ停戦のための外交活動を政府に要求する請願のことで、議員からたくさんの討論がありました。この件に関してどのように受け止めていますか。

(濱砂議長)

戦争が停戦してほしいということは、我々も当然なこととして受け止めています。会派間の考え方に違いがありますので、委員会に付託をし、議論をしっかりといただいて不採択に至ったということです。

それに対して、個人的あるいは会派の考え方としての意見を発言されましたが、議長として粛々と対応しました。

(日高副議長)

ガザの状況は我々も当然分かっています。国が全く行動を取っていないことであれば分かるのですが、国も問題意識を持って動いているので、あえて請願を採択するののもどうかと思っています。また、そのような意見もあったと聞いています。